

7. なんかおもしろいことしたいねん

コロナ禍で動画や映像を取り入れたレクリエーションの取り組み～

介護老人保健施設 ふれあい

介護福祉士 荒井泰博（あらい やすひろ）

共同発表者 森匡毅

【初めに】

2020 年から現在までコロナウイルス感染症流行に伴い、当施設では家族面会や全体行事が実施しにくく、中止せざるを得ない状況が続いた。家族面会やレクリエーション（以下：レク）の制限など、利用者の快が減少し利用者のストレスが増加していく中でストレスの軽減や感染対策に考慮したレクが実施出来ないか多職種で検討した。

【目的】

動画や映像を用いて、利用者とのコミュニケーション方法として活用するとともに毎日の生活で楽しみが持てるレクの提供を行う。それにより、利用者の快を増やし、ストレス軽減、精神的賦活を目的とした。

【方法】

TV やスクリーンを使用し、感染対策としてスタッフの介入を最小限にする。映像は体操や童謡などのインターネットを活用。動画は毎年、子供祭りで協力していただいていた保育園に動画の撮影を依頼する。撮影された動画を 15 分程度に編集し、レクの時間帯に視聴。視聴後、利用者と当日出勤者へアンケートの実施。アンケート内容は利用者に対して動画内容の感想や今後、実施して欲しいことを職員が聞き取り用紙に記入する。当日出勤者に対して、動画視聴している時の利用者の様子やその後の様子、職員の導入のしやすさ等自由記述回答とする。

【結果】

動画を編集し、利用者に視聴。2 階 3 階の利用者 45 名にアンケートを実施。37 名より回答があり、「楽しかった」「またやって欲しい」「面白かったわ」「可愛かったな」「動画も嬉しいけど、会いたいな」「一緒にふれあいたいな」との意見だった。しかし、8 名より「目が見えないからわからなかった」や「何やってるかわからん」という意見もあった。利用者同士で次はこんな映像ないか等話し合う姿が見られ、職員に聞いてこられる場面も見られた。

【考察・まとめ】

コロナ以前は当たり前のように、毎年、実施していた保育園児との交流を実施していた中で、新型コロナ感染症が流行する中で中止せざるを得ない状況の中では画期的な取り組みだったのではないかと考える。目が見えにくい利用者や映像だけでは理解が難しい方も居られた中で、事前に動画内容を伝えることや動画を流すだけではなくて、一緒に見ながら説明する事で理解がしやすい状況となったのではないかと考えている。今回、新型コロナ感染症により、家族面会やレクが制限されていく中で、感染対策を考えていく中でマンネリ化したレクの提供となっていたことに気づいた。その状況を打破したのは利用者の「声」と職員の発想の転換であると考えている。利用者の声に耳を傾け、その状況をチームとして検討していくことが、固定概念を覆すヒントになると考えている。今後も忙しい時や人手がないからレクが難しいと視野を狭くするのではなく、その課題をチームとして検討することでレクの充実化に繋がっていくと思います。これからも利用者の「笑顔」や「今日も楽しかった」と聞けるような取り組みを継続していきたい。